



感染性胃腸炎



冬の寒さを感じる季節となり、今年も残り1カ月となりました。

仲町病後児保育室では感染性胃腸炎等でのご利用の方が増えてきています。日頃から手洗い、うがい等の感染対策を行い予防を心がけましょう。

接触感染

- 嘔吐物や便を処理した後、手に付着したウイルスが口から体内へ入る。
- 手に付着したウイルスがドアノブやタオルなどを介して口から体内へ入る。

経口感染

- ウイルスに汚染された食品（カキなどの2枚貝）を生、または十分に加熱しないで食べる。
- 感染者が調理することでウイルスが付着し、その食品を食べる。

飛沫・塵埃感染

- 下痢や嘔吐物が飛び散り、飛沫が口から入る。
- 残った吐物や便が乾燥してちりやほこりとなって空気中を漂い、口から入る。



☼感染後24～48時間で吐き気、発熱、腹痛、下痢の症状がみられます。

※感染するとウイルスは1週間程度、便とともに排出されます※

☼嘔吐、下痢が続くと脱水になりやすいのでこまめな水分補給をしてください。

なるべく胃腸を休めて安静にし、消化の良い食事を少量ずつ取り様子をみてください。

< 予防対策 >

※トイレの後や調理・食事の前など石鹸で手を洗い流水で流し、家族でタオルを共有しない。（出来ればペーパータオルを使用する）

※吐物や便の処理は0.1%の次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が有効。使い捨て手袋、マスク、エプロンを使用する。

